

平成31年3月20日

西部農林振興センター 益田事務所 農業普及部

標 題	益田市飼料用米研究会と市内大規模畜産農家の意見交換会を開催！ ～耕（供給者）と畜（需給者）連携を強化し更なる取引拡大へ～
------------	--

（ダイジェスト）

3月12日（火）、益田市の集落営農組織9法人で構成される「益田市飼料用米研究会」（以下、研究会）は、市内の大規模畜産農家との意見交換会を開催しました。当日は、畜産農家と生産者、関係機関、計10名が集まり、次年産の作付け計画や出荷見込み等について共有化を図るとともに今後の受け入れ体制等について意見交換を行いました。

本年度の「普及情報 No. 8、19」で紹介したように、本研究会は飼料用米生産の省力低コスト化技術と多収性品種比較の実証試験を中心に活動を展開してきました。活動内容は以下のとおりです。

H30年度 益田市飼料用米研究会の活動内容

開催日	活動内容	テーマ
5/25	現地検討会（第1回）	乾田直播栽培の播種作業
6/22	現地検討会（第2回）	乾田直播栽培の苗立状況確認
9/25	現地検討会（第3回）	乾田直播栽培、多収性品種の成熟期（稈長、穂長の比較）
11/23～12/4	飼料用米経営調査（6法人）	乾田直播栽培、多収性品種の経済性（労働時間、生産費等）
1/30	実証試験の成績共有会	実証試験の結果共有、次年度の実証内容、作付け計画の決定
3/12	畜産農家との意見交換会	作付け計画の共有化、品質や受入体制に関する意見交換

今回は、今年度の最後の研究会活動として市内大規模畜産農家との意見交換会を開催しました。

当日は、本研究会の北條会長より今年度の取り組みや今年産の作付け計画、計画に基づく出荷見込みを提示し、品質面や今後の受け入れについて意見交換会を行いました。畜産農家からは品質面は問題なく、まだまだ受け入れ可能との要望がありました。

今年産の本研究会の飼料用米作付面積は54ha、畜産農家への出荷収量は320tを見込んでいます。

（H30年産：作付面積50ha、出荷収数量300t）

普及部としては、次年度も引き続き実証試験を中心とした生産者の単収向上、省力化栽培技術の確立に向けた活動支援を行っていくこととしています。



研究会から出荷された飼料用米



市内大規模畜産農家との意見交換会